

環境パートナーシップいわては3年目を迎えます。

## 「環境パートナーシップの集い」が行われました

～3・6岩手第一ホテル～

「環境パートナーシップの集い」は大好評のうちに開催されました。

環境パートナーシップいわての集いは、会員相互の交流と自由な意見交換の場として開催してきました。プログラムでは、古着によるファッションショーで村井代表以下、運営委員の面々もモデルとして登場しました。来年度の事業についての意見を出し合うワークショップや懇親会もなごやかな中にも熱気があり、新たに会員になる方も多く、大いに盛り上がりました。

環境についての取り組みがなかなか広がりをもてないというような率直な声とともに交流することでさまざまなアイデアや活力を得る問題解決の場になりました。

また来年度の事業を考えるワークショップでは、各事業委員会ごとにグループに分かれ活発な意見が次々と出されました。

### 「環境アイデアコンクール」表彰式が行われました



受賞者は以下の通りです

#### <将来部門>

##### ■ 最優秀賞

私達の「お宝」  
酒勾徹

##### ■ 優秀賞

未来へ引き継ごう!幻の花ムラサキ  
～南部紫根染めの復活を目指して～  
盛岡農業高等学校 地域希少植物保護研究班  
工藤奈津樹

##### ■ 優秀賞

「柳沢いいものまるとネットワーク」のとりにくみ  
柳沢いいものまるとネットワーク

#### <実践部門>

##### ■ 最優秀賞

岩手大学リユース市実行委員会の環境保護活動  
～大学から地域へ～  
岩手大学リユース市実行委員会  
東條美由希

##### ■ 優秀賞

わが家の環境に関する取り組み&実践活動  
水上見一郎

##### ■ 優秀賞

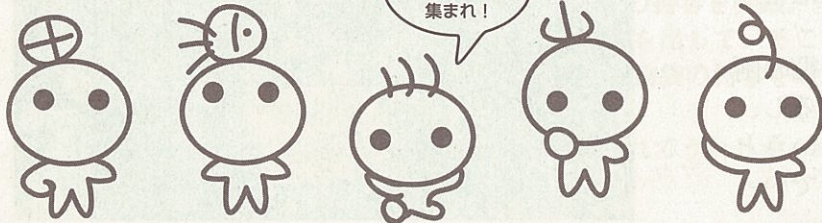
買い物袋を持参しよう  
～いつも身近にお供する古い傘利用の買い物袋～  
室根村婦人協議会

##### ■ 特別部門賞

環境への我が家の取り組み  
高橋良和



6月27日は  
労働福祉会館に  
集まれ!



## 環境パートナーシップいわて第3回総会

日時：2004年6月27日 午後1時(開場)～

場所：労働福祉会館6階「カタクリ」

環境パートナーシップいわての第3回総会です。今回はNPO法人化という節目を迎えた総会になります。

環境パートナーシップいわての集いが総会の前に開催されます。

ぜひ奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

会場決定

## 環境パートナーシップいわての集いの報告

環境パートナーシップいわてでは、会員相互の交流及び自由な意見交換の場として「環境パートナーシップいわての集い」を開催しています。

その環境パートナーシップいわて（村井宏代表、以下環ぱい）の集いが、3月6日午後1時半から盛岡市上田4丁目の第一ホテルで開かれました。

この日の集会では、スタッフが着物をリフォームした衣装をまとして会員を出迎え、環境アイデアコンクールの表彰式、環ぱいの活動を研究した卒論の発表、次年度に向けてのワークショップなどで交流し、新たな気持ちで活動に取り組んでいくことを誓いました。

冒頭、村井代表は「環境問題は一人ひとりの努力だけでは限界がある、皆が力を合わせながら取り組まなければ深刻な状況になる。環境パートナーシップは中核として支援する立場で活動していきたい」と基本方針を示したあと「環境アイデアコンクールにはたくさんのアイデアを出していただき有難く思っている」と感謝の気持ちを表しました。

このあと環境アイデアコンクールの表彰式に移り、実践部門で最優秀賞を獲得した岩手大学リュース市委員会を始め、受賞者7人に村井代表から表彰状と副賞が手渡されました。

審査委員長を務めた岩手日報社論説委員会委員長の中原祥皓さんは「点数では接戦で論議して順位を決めた。若い人が一生懸命に取り組んでくれ、心強さを感じた。実践部門の最優秀賞と優秀賞は僅差で、これからも続けてほしいという願いを込めて若い人たちを選んだ。多くのアイデアが寄せられた。もう一工夫あればレベルがもうちょっと上がったという意見もあったが、多くのアイデアが寄せられ、内容もすばらしく、さらなる広がりを願っている。岩手から全国に発信していただければ審査のやりがいがあった」と今後の活躍を期待しました。

審査委員を務めたIBC岩手放送専務取締役の阿部正樹さんは「皆さんすごいことを考えているし、個人ではなくみんなを巻き込んでやろうということが素晴らしい。若い人たちに受け継いでほしいと思う」と感想を述べました。

表彰式のあと雫石在住の運営委員、小赤澤直子さんデザインのエコファッションショーが開かれ、古い着物を洋服に作り変えた衣装が運営委員や会員らがモデルとなって紹介されました。衣装の中には100年前の着物をリフォームした作品もあり、

着物の持ち味を生かした個性あふれるデザインが会場の注目を集めました。



エコファッションショーの様子

つづいて岩手大学の津川奈希さんが卒論のテーマにした環ぱい活動の研究内容を発表しました。

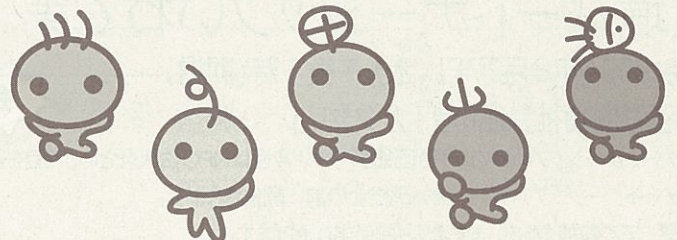
津川さんは「行政への市民提案を目指す取り組みの現状と課題～岩手県環境基本計画市民提案プロジェクトを事例として」と題してスライドを使いながら説明し、市民提案プロジェクトが市民参加型となるためには、組織の安定化と自主活動の充実化、県との協働の確立が欠かせない要素であることを指摘しました。

このあと開かれたワークショップでは、情報活動委員会、市民提案プロジェクト、NPO法人格取得検討委員会など7班に分かれて現状と課題、将来の方向性について話し合いました。

夕方からの懇親会では、ワークショップの報告、活動に参加しての感想を述べ合うなどして交流しました。



懇談会の様子



## 環境アイデアコンクール受賞者

### ◎ 将来部門

#### ■ 最優秀賞 受賞作：「私たちの『お宝』」

受賞者：酒匂徹さん

取り組み：酒匂さんは家畜などの糞尿を利用してメタンガスを生産しています。メタンガスは発酵熱によるエネルギーロスがほとんどなく、地球温暖化対策に有効で、糞尿を資源として循環させる取り組みを実践しています。

受賞の感想：「素晴らしい賞をいただきありがとうございます」



#### ■ 優秀賞 受賞作：「未来へ引き継ごう！幻の花ムラサキ」

受賞者：工藤奈津樹さん（盛岡農業高等学校地域希少植物保護研究班）

取り組み：工藤さんらは、発芽率が極めて低いムラサキの発芽栽培に成功。ムラサキは紫根染めの材料で、現在では貴重植物に数えられており、研究成果が注目されています。

受賞の感想：「国や県で気がつかない小さな変化をとらえて研究をがんばっていきたい」

#### ■ 優秀賞 受賞作：「柳沢いいものまるごとネットワークの取り組み」

受賞者：滝沢村・柳沢いいものまるごとネットワーク

取り組み：ごみを出さないイベントの開催と地元の食材でもてなすことを2本柱に活動する取り組みが評価されました。

受賞の感想：「柳沢地域から発信できるスタートラインに立ったと思っている。岩手山麓工房まつりでマイはし、マイどんぶり運動を進めた。皆で知恵を出し合っている」

### ◎ 実践部門

#### ■ 最優秀賞 受賞作：「岩手大学リユース市実行委員会の環境保護活動～大学から地域へ」

受賞者：東條美由希さん（岩手大学リユース市実行委員会）

取り組み：不要になった講義用の教科書、辞書、参考書を集めて開催する教科書リユース市と不要になった一人暮らし用の家具や家電を新入生に譲る家具・家電リユース市を開催、好評を呼んでいます。

受賞の感想：「リユース市は、廃棄物が減り地域との交流が生まれ新入生は経済的に助かる。後輩に受け継ぎ続けていきたいし、文化祭ではごみの減量に取り組むなど、さまざまな活動をしていきたい」



#### ■ 優秀賞 受賞作：「わが家の環境に関する取り組み&実践活動」

受賞者：水上見一郎さん

取り組み：テレビを見ない時はプラグを抜く、こまめに消灯する、障子やカーテンで寒気をガード、深夜電力で省エネ対策など家庭で無理なくできることで家庭で温暖化防止対策を実践しています。

受賞の感想：「できることを気軽にどんどん実践していきたい。各家庭に静かに普及していけばいいと思う」

#### ■ 優秀賞 受賞作：「買い物袋を自賛しよう～いつも身近にお供する古い傘利用の買い物袋」

受賞者：室根村婦人協議会

取り組み：環境問題の取り組みとして買い物袋の持参を実践。室根村では全世帯が消費するレジ袋が年間約110万枚、重さにして約8・8トンのごみを出していることを知り、少しでも環境への負荷を減らすためステッカー、会報や会合などで買い物袋の持参を呼びかけたほか、古い傘で買い物袋を作り感心を集めています。

受賞の感想：「これが噂の買い物袋と産直で言われてうれしかった。室根村160戸で実現できたらいいと思っています」

#### ■ 特別部門賞 受賞作：「環境への我が家の取り組み」

受賞者：高橋良知さん

取り組み：雫石町の天然記念物ショウセンアカシジミの羽化の観察、100万ドルキャンドルライトの開催などで環境に対する意識づけを親子で実践、行動でレジ袋使用削減、ディーゼルからガソリン車への切り替え、断熱マットで保温効果を高めるなど気がついたことで無理なくできることを実践しています。

受賞の感想：「足を怪我して家庭でも会社でもスローライフを実感している。1600字の制限があったが地域のため、地球のためにと書いた」

### 環境を守る集い 行動への広がりへ期待

中原祥皓



投げ捨てられている空き缶が環境面から大きな社会問題になって久しい。雪が解けると空き缶など投げ捨てのごみが見られる。その散乱状況は、全般的にはほとんど変わっておらず、改善のあとがあまりみられないのは悲しむべきことだ。

この問題の解決は本来、さほど難しいことではない。要は一人ひとりが投げ捨てをやめればよいのである。それさえ守られれば改善される。あらためてマナーの徹底を望んでおきたい。

空き缶の投げ捨ては一つの例だが、環境問題は年々深刻の度合いを増している。地球規模にも一である。温暖化をはじめ酸性雨、水質汚濁、海洋汚染、交通公害、ごみの増大など多様だ。

産業廃棄物の越境移動もクローズアップされている。本県では二戸市と青森県田子町にまたがる国内最大規模の産業廃棄物不法投棄がある。この事件が現実を示しているように、一度破壊された環境の原状回復は容易ではない。「100年の木を切れば、100年以上かかる」の例えもある。環境保全のために、目先の個別の利害や自分本位の思いに惑わされない県民合意の形成を望みたい。

### 望まれる新たな視野

「環境首都いわて」が掲げられている中で、心強く思うのは環境の維持や改善に対する市民、県民の意識の高まりと行動の広がりである。

2002年9月に発足した「環境パートナーシップいわて」がある。各地各種の環境団体や市民団体はじめ個人、事業者、研究者、行政などが参加・連携した組織である。そのパートナーシップが初めて実施した「環境アイデアコンクール」には、さまざまな実践や提言、意見が寄せられた。まさに数多くの住民や団体が身近な問題をテーマに行動を起こしているわけだ。

最優秀賞は、将来部門が「農家の創意工夫が反映される循環型農業の見直し」を提言した東和町の酒匂（さかわ）徹さん、実践部門は岩手大学学生グループの「地域にも広げる環境保護活動」、特別部門は環境改善を日々の生活と密着させている「わが家の取り組み」を紹介した雫石町の高橋良和さんが選ばれた。

環境の維持と、よみがえりに地道な努力の継続は言うまでもないが、環境問題には予期しない難題も潜んでいる。その意味で新たな視野とアイデアが求められてくる。そここのところも忘れてはならないことだろう。

### 協働で循環型社会を

昨年4月に施行した循環型地域社会の形成を目指す県条例がある。最小限の資源を利用し、長寿命の製品を作り、廃棄物を減らし、再使用や再生利用、リサイクルする地域社会の構築である。ぜひ実現したい。県や自治体ばかりでなく県民も、それぞれに具体的な行動計画を作って自主的に取り組みを進めていきたい。関連の生産、流通業界も協力を惜しんではなるまい。

大量生産・大量消費の時代は資源の枯渇と環境の破壊を招いた。資源の節約を確かなものにするには、製品を長く使う風土を育てることだ。その実践を、あらためて提起したい。

コンクールにはリサイクルの実例や環境保全を考えた「エコライフ」の提案も多く、取り組みの重要性を指摘している。環境については問題点を認識するだけでなく、その環境をいかに守り、維持していくかを行動に移すことが何より大事だ。

入賞者の表彰式は6日、盛岡市の第一ホテルで開催の「環境パートナーシップいわての集い」で行われた。応募者の熱意と実行が広く発信できれば「環境首都」の実現に大きな効果を挙げるのは確かなことである。

(2004.3.9 岩手日報 論説より)



審査会の様子

## 3/6「集い」ワークショップでの次年度の事業へ向けての意見

### ■市民提案プロジェクト委員会

- ・子どもにわかりやすく、子どもにも気づかせて大人がこんなにこんなことをしていることを子どもにも知らせたい
- ・マンガ化して学校に普及。課題ごとの冊にする
- ・基本計画の内容をもっとわかりやす

- く、マンガ化の様にして、各学校に配付し、学校の総合学習の計画に入れてもらった
- ・会員ひとりが一つについて考えるとか
- ・教育に力を入れよう（五感を使った子どもへの）
- ・子どもにもわかる環境基本計画読本

- ・一般の人に分かるような方法で、たとえば小学校や中学校の中に学習だけでなく、貼っておいても良いのではないかと思います。環境問題は身近なところから分かりやすく表示したらどうでしょうか？
- ・特にリサイクル、ゴミ問題は各市町村にも大事なことなので小さいうち

- から教育の中に取り入れて欲しい
- 大人と子ども、どちらからも教育すべきである
- はじめて知りました。環境基本計画の要旨について学習会を継続すべき、環境基本計画の共通理解
- 外国の方、先進国の例、メンバーに
- まずは「環境基本計画」について勉強しなければならないと感じた
- 計画の概要版、ビデオ版、子ども版が必要、環境基本計画が市民に知られていない、全体ではなくても個々の意見の積み上げが必要
- 環境基本計画や条例を簡易化した冊子をつくり普及させる
- 環境基本計画を私自身初めて目にした。もっと県民・市民の方に知っていただければいけないと思った。
- 問題点を絞った方が良いのかもしれない。一つのテーマにするか、グループ分けして学習し、発表会で分かち合うなど。
- ワークショップ前に計画を簡単に理解
- 地域ごとの実態調査をのせる（意識の高いところの実例）→課題→他地域と比較でき、向上心をあおる

## ■地球温暖化防止活動推進センター設置検討委員会

### ～アクション～

- あせらずにやろう！
- センター設置の必要があるが、どのような活動をするか明確にすること
- アクションしつつ論議しつつ併行してスピーディに進めるためのセンターなら必要
- エネルギー消費調査、自分のデータを提供してもらい、みんなのデータをまとめてみんなで考える
- 温暖化防止へのスピードが必要、水上氏の実践を140万県民までひろげられるか
- 情報を集める

### ～情報交換・コミュニケーション～

- 情報交換が（コミュニケーション）大切で力の結集があれば
- 環境について感心の強い人々がひとつになって情報を交換する場は必要
- 何をすべきか、どうすべきか、考える為に多組織が必要
- 推進員の交流の場
- 具体的に活動を示す
- 交流ネットワーク
- 温暖化防止…個人でできるものではない⇒（つながり）個人が自分ができることをやる
- 推進員間の情報交流が必要
- 推進員の組織化
- 系統的、計画的活動
- 市町村の「協議会」を立ち上げに

### 尽力

- 情報交流、地域によって温度差がある
- コミュニケーション必要性
- エコアクション
- よこのつながりが無い
- 地域ごとに集まりたい→まちおこし
- 推進員の名前を売る

### ～その他～

- センター設置の目的は何か？
- 誰がターゲットか？
- 何が目的か
- 問題意識
- 一般の認識不足



## ■情報活動委員会と環境パートナーシップいわてのつどい

- ニューズレターに企業、個人の取り組みを取り上げる
- 一般の人が参加しやすいよう生活関連の深いものごとをテーマにイベントを開く
- まちづくりとタイアップして環境問題を考えると関心が高まるのでは
- 岩手に自生
- 生息する動植物をニューズレターにする
- 景観条例（盛岡）を提案
- 環境と景観がまちづくりが強くなっている
- 町づくりと環境はひき離せない、町にある小さな身近な問題を環パが拾えるようなくみが欲しい
- ニューズレターの活用、地域地域の環境問題や情報など
- 少人数でもよいので「つどい」を各地で開催する（話を開く会的なもの）
- （イベント情報提供においても）気軽さが無い、やわらかい情報提供
- 県民の効果的な情報提供のために早く
- 安心な（メールだけでない）しくみをつくる
- 環パの活動が盛岡中心の部分もあるので各地域でも活動ができるよう情報の交換が必要
- 企業が参加しているものの、企業の活動が見えないので情報を取り上げたい
- 環パの活動を盛岡やその周辺に限らず県内各地に展開したらどうか、この活動の規模は小さくてよいが、地域の人や場を必ず取込むことが大事
- 情報は正しく、できるだけ速やかに伝達することと思う、人材のあるこ

- の組織を積極的に生かすように
- ニューズレターの字をもっと大きく、説明をわかりやすく、より美しくするように。時にカラー写真を入れてもよいのではないか
- 活動の範囲やテーマを「環境」から広く展開して、誰にでも取り組めるようにしたい
- どうしたら環パの輪を広げることができるだろうか、難しすぎるという意見がある
- つどいも各地でやっていければ良い
- 事業、イベントの情報を早く提供する
- ニューズレターは楽しく少なくし、部数を増やす

## ■NPO法人化取得検討委員会

### ◎何故法人化が必要か？

- 信頼関係の構築
- 補助金等の社会環境
- 将来的な自立の道
- 市民運動としての自覚
  - ・市民運動としての、一人一人の、責任としての、自覚としてのNPO
  - ・会員相互の信頼関係の構築
  - ・フットワークの軽いこと（事業達成のために）
  - ・目的と課題をしっかりとつかむ

### ◎法人化に向けた基本的課題

- 事務処理
- 意識の共有（会員の意志統一）
- 会費徴収
  - ・現環パの会員の意志統一をどこまでできるか、規約、定款の中でどうしていくか
  - ・事務処理の中、経理の独立
  - ・会計の明確さ、公開性
  - ・専従事務局員の配置（複数）
  - ・会員相互の意識の共有化を図ることが広がり
  - ・会費徴収の努力を
  - ・意識の深いレベルでの共有（少なくとも運営委員間で）

### ◎その他の課題

- NPO環パの（正会員）メンバーに現在の会員であるNPO法人は法人として参加できるのか？（会社内会社になるのでは？）
- 今一度法人化の意味を…。議論を深めることが必要では。
  - ・法人化に向けて会員の増減はあると思う



岩手県立大学の細川絵未さんよりご寄稿いただきました。

3月の6日～8日に、東京で開かれたエコ・リーグ(全国青年環境連盟)という団体主催の「3月ギャザリング～Key person\_\_it's YOU～」という会に、県立大の友人四人で参加してきた。この会はいわば、全国各地で環境問題にアクションを起こしている、主に大学生主体の交流会だ。単に交流するだけではなく、そこで自分達の知識や技術を向上させる企画がたくさん盛り込まれているものである。

1日目は夕方から始まり、まず始めにアイスブレイキングをかねてグループに別れ、様々なアニメのキャラクターで環境問題がテーマの劇を即席で作って披露するというを行った。次に、様々な分野から環境問題にとりくんでいる方々(企業、NGO、行政、ベンチャービジネス、研究者)の講演会を、分科会という形で一つ聴いた。

2日目、午前は明治神宮で森林インストラクターの方の指導のもとでフィールドワークと、室内で環境トリビア(環境に関するムダ知識)クイズがそれぞれ行われた。午後は産直経営をしている方の講演に始まり、現在進行形の環境問題の分科会(テーマ：日本のODAの将来、西表島と開発問題、携帯と環境問題、川辺川ダムと河川行政の転換、気候変動とエネルギー)がそれぞれ開かれた。夜は、効率的で持続的なイベントやサークル運営ができるように、個々のスキルアップをめざす分科会(プレゼン、ビジネスマナー、企画の進め方、HP作成、引継ぎ、コーチング)が開かれた。

3日目、最終日はおしゃれなカフェの雰囲気の中で、数分間隔で人が入れ替わって1対1での語り合い(1人は聞く側、1人は話し側)をして幕を閉じた。また、一日目、二日目の夜には数多くのテーマの自主企画が開かれ、その後はみんなで環境や恋愛、人生について夜通しで語り合った。

去年の夏にも学部の全国交流会に参加したが、やはりテーマが自分の興味関心のある「環境」ということで、自分自身の参加の姿勢や吸収力が全く違い、私のテーマは環境なのだと、再認識した。

全国の学生はとても進んでいると感じた。まず活動の規模が全然違う。学祭のリサイクルにとどまらず、多くの人を巻き込めるような大規模の環境のイベントを企画したり、調査や研究を行い、それを本や報告書の形にして提言した

りしていた。中には大学から一つの授業枠をもらい、環境講義を学生の手で作る(授業単位認定あり)などということをしている大学もあった。環境アクションを自己満足に終わらせず、必ず何らかの形で世の中に提言しているところがすごいと思った。

また、環境アクションにも、本当に様々な切り口から取り組んでいる・取り組んでいきたい人達がいるのだということを知った。環境教育1つをとってもビジョンがそれぞれ違う。世代を超えて、みんなで環境に対する思いを共有していけるような教育をしたいという人もいれば、高校生の理系は将来技術開発などに加わっていくわけだから、環境に配慮する意識をもって商品を開発していけるように、理系限定で教えたいという人もいた。

さらに思いを羅列すれば、環境ビジネスを通して…自然と直接触れ合うことで環境問題に意識が働くのでは…町が花でうめつくされたら自然と人はごみをポイ捨てし

なくなるのではないか…全国を自転車で回って環境問題を訴えている…芸術から環境問題を訴えたい……本当に十人十色の考えで、どれも貴重で希少な切り口だった。

全国にはこんなにもアクションを起こしている人達がいて、切り口は違うが環境への思いを同じくしている人がいると分かり、励みになると同時にモチベーションもあがった。

最後に、ギャザリングで出会った、社会人の方からいただいた嬉しい言葉を紹介して終わりにしたい。

私はその方に「参加したみんなは岩手が大好きで、学生、県大、岩手だからできることをしていきたいと思っています！」と言ったところ、その方は「そういう人ってきっと他の土地や文化、そして人のことを同じように愛せるのだと思います。岩手を愛する心がグローバルズムの一步に繋がっていくなんて、素敵だと思いますか？学生、県大、岩手だからできることをしていきたい…それが分かっているあなた達だから私は大好きで期待を持てるのです。」という言葉を読んだ。この言葉は私や友人にとって、非常に励みになる言葉だった。

私達は「岩手が好き！岩手で行動することに意味がある！」と思い、県立大に入ったからだ。この言葉を通し、自分達のやるべきことが見えてきた気がした。大学という場で、少しずつ環境のネットワークを広げ、基礎を作ることが私の現在の使命である。これからも頑張っていきたい。



「3月ギャザリング～Key person\_\_it's YOU～」  
2日目のフィールドワークのメンバー  
写真中央は森林インストラクター

岩手県環境保険研究センターの菅原龍江さんよりご寄稿いただきました。

### 「豊島廃棄物等処理事業の現状と課題」

合田順一氏 講演

3月13日に岩手大学で開催されたINS環境リサイクル研究会において、「豊島等廃棄物処理事業の現状と課題」というテーマの講演がありましたので、ご紹介します。

講師は香川県直島環境センター所長の合田順一氏。80年代から90年代の始めにかけて瀬戸内海の豊島に不法投棄された60万トンを超える産業廃棄物を処理するため、昨年9月に運転を開始した廃棄物処理施設の責任者です。豊島の不法投棄現場から重機で廃棄物を掘削、養生後にダンプに積み込み専用輸送船で約8キロ離れた直島に運んで焼却・溶融処理、副生成物である銅やアルミなどを回収して利用するというのが全体のフローで、10年かけて処理する計画。処理施設建設や輸送船建造等の初期投資及び10年分の処理経費を合わせて総額500億円近い事業が動き始めた、ということでした。

しかし、処理施設は動き始めたのですが、小規模な爆発事故などのトラブルが時々発生するようで、その都度施設を止めては原因を調べては前処理方法を変えたり施設改善を行ったりするなど、対応に追われているようです。処理が軌道に乗るまでにはまだかかりそうですが、二戸の県境産廃不法投棄のこともありますので注目していきたいと思います。

ところで、この事業を紹介するパンフレットに、「この瀬戸内海に浮かぶ豊島で起こった産業廃棄物不法投棄事件は、経済優先社会のいわゆる「ごみ」の問題を世に問い、我が国がより環境負担の少ない循環型社会を目指していくきっかけとなりました。」という一文があります。経済優先とは、端的に言うと、便利なものを安く買えるならゴミがたくさん出ても構わない、そしてゴミ処理にはあまりカネをかけたくないという考え方のこと。クルマを廃車する場合に、引取業者に対して廃車手数料を値切る、引取業者はそれを処理業者に渡す際に処理料を値切る、処理業者は・・・、とどのつまりは不法投棄。

経済優先社会などという、評論家レベルの話で、自分とは関係ない他人ごとのような印象を受けますが、自分もそのような社会の構成員であり、疑問を持ちながらもその恩恵にあずかってきた大多数の者にとっては、責任の一端は自分にもあるという認識を持つことが再発防止のスタートラインではないか、と思います。

「子供は親のカガミ」という言葉があります。子供の行状を見れば、親がどう考えどう行動しているかが解る、という意味ですが、廃棄物問題についても、「子供＝廃棄物処理業者」の行状は、「親＝廃棄物処理の委託者＝国民」の考え方や行動を映すカガミになっていると思われれます。良い子供に育てたいと思ったら、親が自らを律する必要があるのではないか、そんなふう感じた次第でした。

## INS環境リサイクル研究会

<http://www.ins.ccrd.iwate-u.ac.jp/>

### ■ INSとは…

INSは「岩手ネットワークシステム」の略称です。岩手県内の科学技術および研究開発に関わる産学官の人々の交流の場です。そこから、21世紀に向けた岩手の科学技術と産業の振興をはかっています。

### ■ 環境リサイクル研究会とは…

豊かで清らかな緑あふれる「いわて」の環境は、はるか昔から今に至るまで、多くの先人の努力により守り育てられてきた貴重な資源、財産であり、我々及び我々の子孫が将来にわたって健康で潤いのある生活を営むためにかかすことのできない基盤です。

しかし、今、我々のまわりでは、身近な自然の減少や増え続ける廃棄物、さらには二酸化炭素等の増加による地球温暖化など地球規模の問題に至るまで、様々な環境問題が起き、人類の生存を危うくすることが懸念されています。

そこで、岩手の豊かな環境を生かした資源循環型社会と環境共生型産業の創成に向けて、資源リサイクル、ゼロエミッション等の情報・研究交流を進めることとしています。



1992年のリオの環境会議以来、行政への市民参加は、ドイツでも大きな社会的要請となった。今回は、フライブルク市都市計画における新しい取り組みを2つ紹介する。現在日本でも関心が高まっている市民参加の参考にしていただければと思う。

### ■プラン（土地利用計画）への市民参加

以前の都市計画における市民参加は、自治体が計画案を作った段階で市民に公開し、意見を聞く、というパターンがほとんどであった。現在の法律で市町村に義務づけられているのも、この段階からの市民参加である。それ以上のことをするのは自治体の自由意志、という訳だ。このような状況に対し、市民側からは、計画案ができた段階からの市民参加では、自分達の意見がほとんど反映されない、という批判がでてくる。

フライブルクでは、市民の要望に答える形で、2005年に完成予定の「2020年Fプラン(土地利用計画)」作成にあたって、法律の枠を遥かに越えた市民参加プロセスが実行されている。

Fプラン(土地利用計画)とは、ドイツの各自治体が15年おきに作成する土地利用に関する総合プランだ。日本でいうと「市町村マスタープラン」がそれに近い。簡単に言えば、住宅地域、産業地域、農業地域、自然地域、道路などを指定した図、計画書だ。作成にあたっては、経済、エコロジー、保養、教育、とあらゆる観点から総合的な考察がなされる。将来15年の土地利用における大きな指針、枠組みがこのプランだ。

フライブルク市は、2001年5月から2002年7月にかけて、「将来のフライブルク、市民と行政の対話プロセス」という市民参加の準備期間を設けた。このプロセスでは、各地区ごとに行政の職員が外向いて情報を提供し、また市民から意見やアイデアを聞いた。1年2ヶ月に渡る対話プロセスの司会を務めたのは、スイスのコンサルタント会社だ。直接民主主義の伝統があるスイスでは、行政への市民参加も大変進んでいる。経験豊富で中立的なスイスのコーディネーターに間に入ってもらうことにより、市民と行政が対等の立場にたって議論をすることができたようだ。

現在も、定期的に市民と行政の議論の場が設けられている。あらゆる分野のデータや、収集された市民からの意見などをもとに、土地利用指針が

今年末にできあがる。その指針をもとに、来年から実際のプラン作成だ。同時に、これから司会を勤める有志市民のための司会者養成講座も開催されることになっている。2004年末には、「計画予備草案」が提出される予定だ。従来の市民参加は、この時点から。

この新しい市民参加プロジェクト、行政にとってはかなりの負担だろう。市の担当者に感想を聞いてみた。「確かに以前より時間もお金もかかるかもしれない、ただ、早期から情報を公開し、市民の意見を聞きながらプランが作成されるので、プラン草案ができてから、承認、執行に至るプロセスは以前よりスムーズに進むはずだ」。

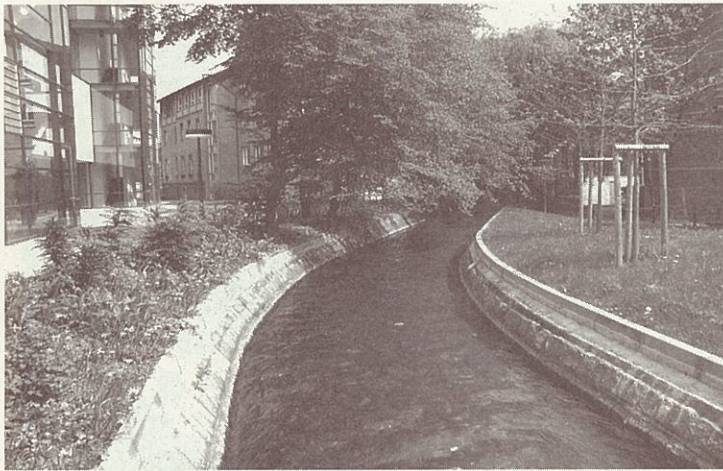
### ■都市水路改修プロジェクト

もう一つ興味深いプロジェクトを紹介したい。

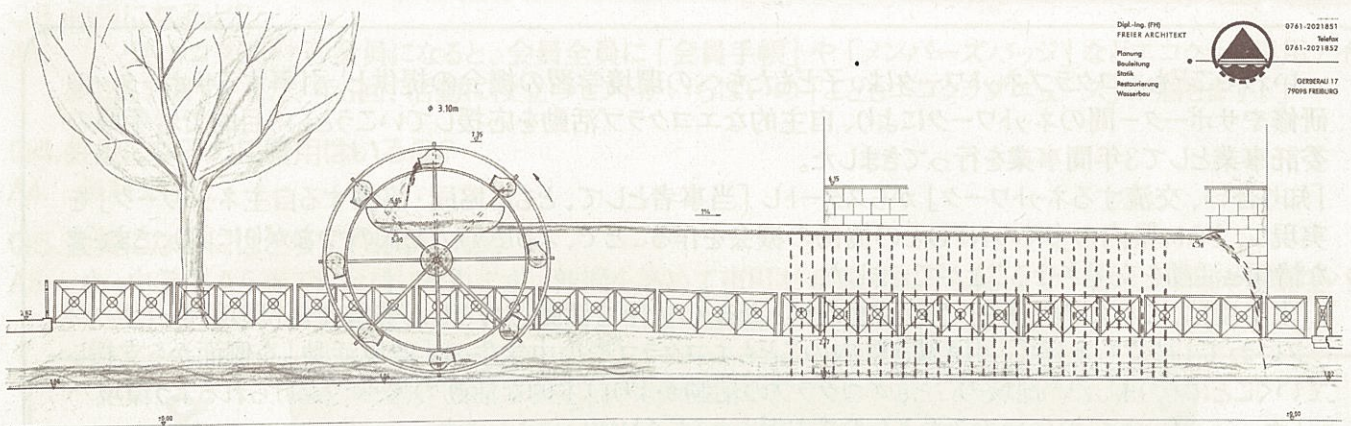
フライブルクには、以前町の汚水を外に流すためにつくられた都市水路がある。地下の下水管が整備された今日では、この水路にはきれいな水が流されている。汚水をなるべく早く外に流すために大部分セメント舗装が施され、まっすぐに走る都市水路は、エコロジカルな観点、また保養の観点からも単調で魅力がない。この都市水路の改修案を、市民の手によって作ろうというプロジェクトが2002年秋にはじまった。ローカルアジェンダの一環として始まったこのプロジェクトには、約25人の有志の市民が集まり、10ヶ月後には、都市水路の具体的な改修案を作り出すことに成功している。自治体の専門職員は定期的に会に参加し、専門的な助言を与えていった。







Profilaufweitung im Institutsviertel I



Dipl.-Ing. (FH)  
FREIER ARCHITECT  
0761-2021851  
Telefax  
0761-2021852

Planung  
Bauabstimmung  
Statik  
Restaurierung  
Wasserbau  
GEREBAU 17  
79098 FRIEDLING

このプロジェクトの呼びかけ人でありリーダーとなったのは、フライブルク大学森林環境学部ランドスケープ研究室のオリバー、カイザー氏だ。彼はドクター論文で、フライブルクの都市水路について研究を行っている。このプロジェクトでは、彼を中心とする学生チームが司会を勤めた。当初、参加者の個人的な意見などによって混乱していたが、学生チームの、目標を見据えたうまい司会運びによって、議論はすぐに地に足がついたものとなった。

作られた改修案、しかし町の予算だけではとても実現できない。プロジェクトグループの現在の課題は、民間の投資家探しだ。

ドイツの役人は、日本と違い、自分が希望すれば20年30年とずっと同じ部局で専門家として働くことができる。ここに紹介した2つのプロジェクト、いずれも計画の段階から市民に参加してもらおう、という新しい試みだ。これに対してプライドの高い専門職員は、「市民の早期参加はいいが、専門知識がない市民から突拍子もないアイデアが出たりして、時間がかかり、効率的でないのでは」という懸念を抱いていた。専門家と素人、この両者の亀裂を埋めるのは、コーディネーター、

司会者だろう。日本でも最近各地で盛んに行われている市民参加プロジェクト。一番必要とされているのは、有能なコーディネーターかもしれない。

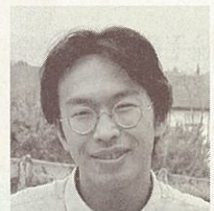
#### 参考文献

都市水路改修プロジェクト：

詳しくは、「ビオシティ」（27号）（2003年12月初旬発行予定）をご覧ください。このテーマに関する筆者の記事が掲載されています。

#### 執筆者プロフィール

池田憲昭  
(Ikeda Noriaki)



1972年長崎県生まれ

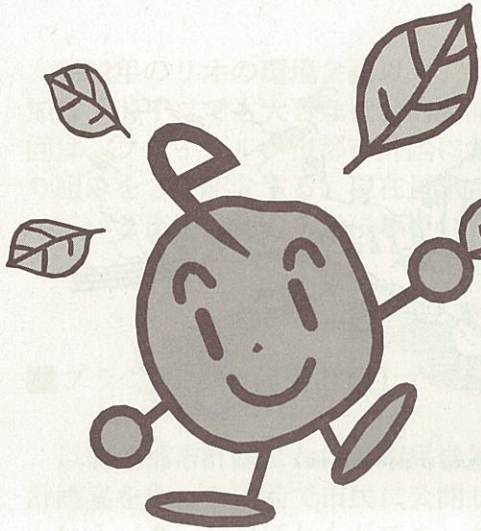
1997年 岩手大学人文社会科学部卒業

2002年 フライブルク大学森林環境学部、  
ディプローム課程修了（修士に相当）

現在、ドイツ・フライブルクを中心に執筆、エコツアーのコーディネーター、通訳などの活動を行う。

E-Mail: noriaki.ikeda@breisnet-online.de

# みんなこどもエコクラブにあつまれ!



いわてこどもエコクラブネットワークは、子どもたちへの環境学習の機会の提供と、引率するサポーターの研修やサポーター間のネットワークにより、自主的なエコクラブ活動を応援していこうという目的で岩手県の委託事業として3年間事業を行ってきました。

「知り合い、交流するネットワーク」からスタートし「当事者として、ともに協同・協働する自主ネットワーク」を実現し、さらに県内の多くのNPOとの協働の機会を作ることで、より広い人と人のつながりにより、さまざまな情報と活動を交差させることができました。

来年度は、これまでネットワークの活動の核となるメンバーを活動主体とした委員会を「環境パートナーシップいわて」に立ち上げて、引き続き県内のこどもエコクラブや小中学生の「環境活動」を側面から支援していくことになりました。地域のこどもエコクラブの活動がより自主的な活動の場へつなげられるよう環境パートナーシップいわての会員のみなさんのご支援をよろしくお願いいたします。

## いわてこどもエコクラブの活動



### つなげる

顔のみえる相互関係サポート

子どもが自然や環境に近づくための技術や活動のヒント。楽しく好奇心に満ちた活動のための支援を行います。

### 元気づける

広報・評価サポート

活動の進め方、メニューなどに不登はありませんか? 活動例を知り、自分達の活動が評価される事で、元気がでできます。

### 手伝う

情報サポート

同じキーワードで活動している仲間をつなげます。情報交換は問題の解決につながります。仲間がいると安心です。



## Q1. こどもエコクラブってなに？

A1. 「こどもエコクラブ」は、地球ともっと仲良くなるために、自分たちの地域で仲間と一緒に環境活動を行っている小・中学生のクラブです。

環境省の呼びかけにより、平成7年6月に活動がスタートしました。全国で、約4,000クラブ、77,000人の仲間が参加しています。岩手県では、69クラブ891人（平成14年度）の仲間が活動しています。

## Q2. どんな活動をしているの？

A2. 「こどもエコクラブ」の活動には、「エコロジカあくしょん」と「エコロジカルとれーにんぐ」の2つがあります。一年間がんばった会員には、「アースレンジャー認定証」が贈られます。

### 「エコロジカあくしょん」

自分たちで自由に目標を決めて、自主的に行う活動です。自分たちの町の生物を調べ、リサイクル活動、自然観察隊…など、環境に関することなら、何でも「エコロジカあくしょん」になります。

### 「エコロジカルとれーにんぐ」

全国のこどもエコクラブ共通の活動プログラムです。活動テーマは毎年変わります。会員に届く「こどもエコクラブニュース」の中に、毎回の活動テーマが紹介されています。

## Q3. 会員になると？

A3. 「こどもエコクラブ」の会員になると、会員全員に「会員手帳」や「メンバーズバッジ」などエコクラブ専用アイテムが送られます。また、年5回、活動に役立つヒントがいっぱいの「こどもエコクラブニュース」が届きます。」

## Q4. 会員になるのに費用はいるの？

A4. 無料です。

## Q5. 会員になるにはどうすればいいの？

A5. 小・中学生なら誰でも会員になれます。仲間を集めて市町村事務局に申し込んで下さい。今年から環境パートナーシップいわての事務局へメールで新規／更新の手続きができるようになりました。



## こどもエコクラブに参加するには…



### 1、仲間を集める。(2人～20人くらい)

こどもエコクラブは、グループで活動するのが基本です。最初に一緒に活動する仲間を集めよう！小・中学生なら近所のお友達、兄弟、学校のクラス、子ども会など…なんでもOKだよ。

### 2、サポーターさんを探してお願いする。(必ず1人以上)

こどもエコクラブでは、クラブの活動を手伝ってくれる大人の人を「サポーター」と呼んでいます。事務局の人と連絡をとってもらったりします。

お父さんやお母さん、学校の先生など、サポーターさんをお願いしてね。

### 3、申し込み

下記の必要事項をご記入のうえ、Email又はFAXで環境パートナーシップいわて事務局宛にお送ってね。 FAX 019-653-6888 E-Mail:eco@isop.ne.jp

事務局からこどもエコクラブ岩手県事務局(岩手県環境生活部 環境生活企画室内)へ登録手続きを行います。

### ▽記入事項

子どもの人数／サポーターの人数／バインダー必要個数／クラブ員名簿(氏名、学年、JEC活動年数)／代表サポーター連絡先(氏名、住所、TEL、Email、JEC活動年数)／グループの種類(該当するもの→近所のお友達、家族・親戚、ボーイ・ガールスカウト、子ども会、児童館や公民館のグループ、自治体の募集、学校のクラス又はクラブ又は委員会)／こどもエコクラブでやってみたいこと

### ▽登録についてのお問い合わせ

こどもエコクラブ岩手県事務局(岩手県環境生活部 環境生活企画室内)

〒020-8507 岩手県盛岡市内丸10-1

TEL. 019-629-5329 (ダイヤルイン) FAX. 019-629-5334

## 一人一人のドライバーの努力で地球環境を守りましょう!

私たちが日常生活で使用するエネルギーの中でも、特に石油を主燃料とする車からの排出ガスが、地球温暖化の大きな要因の一つとなっていますが、国内で一年間に排出される二酸化炭素総量の約20%は、これら車から排出されており、しかも今後増える傾向にあります。

「エコドライブ」は、車のもつ利便性を享受しつつ、そこから排出される二酸化炭素を極力少なくしようとするもので、環境対策に寄与するだけでなく、安全確保(事故防止)や経営改善(燃料コスト削減)の面でも効果が期待できます。

「エコドライブ」を実践している事業者は、燃費の改善に成功しています。例えば、トラック事業者で13%、バス事業者で5%という燃費改善率が確認されています。

(交通エコロジー・モビリティ財団が実施した、エコドライブコンテストの応募事業者データより)

### 今すぐ、誰にでもできる地球温暖化対策:「エコドライブ」 ~その方法~

- 1 無用なアイドリングをやめましょう。(アイドリングストップ)
- 2 経済速度で走りましょう。
- 3 点検・整備をきちんとし、タイヤの空気圧を適正にしましょう。
- 4 無駄な荷物は積まないようにしましょう。
- 5 無駄な空ぶかしをやめましょう。
- 6 急発進、急加速、急ブレーキをやめ、適切な車間距離をとりましょう。
- 7 マニュアル車は早めにシフトアップしましょう。
- 8 渋滞などをまねくことから、違法駐車をしないようにしましょう。
- 9 エアコンの使用を控えめにしましょう。
- 10 マイカーの利用者は、相乗りに努めましょう。

また、公共交通機関が利用可能な場合には、できる限り利用しましょう。

さあ、「エコドライブ」に取り組みましょう



### 編集後記

環境パートナーシップいわてニューズレターの第5号をお届けします。  
環境パートナーシップいわての集いが大勢の参加者でにぎわいました。会員の層の厚さに改めて驚きました。  
そんな会員同士の情報交換の一つとして外に開かれた「環境学習のためのパートナーズリスト」を募集しています。公民館や学校で使われる日も近いでしょう。

発行:環境パートナーシップいわて事務局

020-0883 盛岡市志家町10-2

TEL 019-621-1890 FAX 019-653-6888

E-MAIL [eco@isop.ne.jp](mailto:eco@isop.ne.jp)